

# 整形外科

顧問 高岡邦夫、管理者 佐々木健陽、副院長 正田悦朗  
 整形外科部長 福岡慎一、安原良典  
 脊椎外科部長 山下智也、大山翔一郎、山田智輝、松下隆義  
 研修医 赤井靖明、川端健太、中村はる香

当院整形外科は、佐々木、正田、福岡、安原、山下、大山、山田、松下の8人の整形外科専門医が常勤しています。さらに大阪公立大学から後期研修医の川端、赤井と滋賀医大から中村。併せて11人で診療にあたっています。

当科は大阪公立大学名誉教授の高岡邦夫顧問の指導のもとに、専門性の高い医療と、エビデンスに基づいた医療を徹底し、地域の皆様によりよい医療を提供できるように日々努力しています。毎週水曜日8時には最新の英語論文の抄読会を、金曜日8時には手術症例を中心にカンファレンスをおこなっています。

脊椎外科は2020年10月には山下先生が脊椎外科部長として赴任し、西宮脊椎外科センターを立ち上げました。脊椎外科は大山先生を含め常勤医2名と後期研修医1名の3人体制で、年々手術件数も増加しています。

外傷は2024年4月には正田先生が県立西宮病院から当院副院長として赴任され、安原、山田、松下、後期研修医2名と6人体制で専門性の高い医療を提供しています。

関節外科は、福岡先生が西宮関節センターを引き続き牽引され、山田、松下を中心に多くの患者に人工関節手術をおこなっています。

肩関節外科は、2022年4月から滋賀医大教授の今井先生が土曜日を中心に診察、手術を開始しました。肩関節に特化したより高度な技術を要する鏡視下手術、人工関節手術をおこなっています。

当法人の特徴として、高齢者の椎体骨折や大腿骨近位部骨折など、治療が長期にわたる場合でも、入院、手術、リハビリテーションなど切れ目のない医療を提供しています。自宅退院が困難な患者には老健をはじめとした種々の関連施設も法人内に併設しています。当院整形外科は専門性の高い医療を提供し、よりこの地域に貢献できるように整形外科一同が丸となって努力し、頑張っていきたいと考えております。

## 外来診療

常勤医8名(佐々木、正田、福岡、安原、山下、大山、山田、松下)による一般整形外科診療、高岡顧問による股関節・骨粗鬆症・セカンドオピニオン外来をおこなっています。関節外科は常勤医2名(高岡顧問、福岡)が専門外来をおこなっています。脊椎診療は常勤医2名(山下、大山)が最新の治療を提供する体制となっています。

## 専門診療

### ■骨粗鬆症(担当医：高岡顧問、佐々木管理者)

高齢者に骨年齢を知ってもらい骨粗鬆症の予防をすることが大切です。近年骨芽細胞を活性化し、骨強度を高める骨形成促進薬や新たな作用の薬がでてきています。患者さんごとに適切な薬を選択し、積極的な骨粗鬆症治療を提供しています。

### ■外傷・骨折・手の外科

(担当医：佐々木管理者、正田副院長、安原、山田、松下、中村、川端)

早期社会復帰を目指して、積極的な手術治療を中心にその後のリハビリテーション等を含めて高度な医療を提供しています。また、高齢者の大腿骨近位部骨折に対して、2次骨折予防といった観点から、48時間以内の手術をめざして、全人的な医療を実践しています。救急診療部門と連携して、この地域の救急患者を積極的に受け入れ、より安全で専門的な医療が提供できるように体制を整えています。

### ■関節外科(担当医：福岡部長、山田、松下、川端)

当人工関節センターでは、関節痛による歩行障害などで日常生活に支障をきたしている変形性股関節症や変形性膝関節症、大腿骨頭壊死や大腿骨内顆骨壊死、リウマチや大腿骨頸部骨折などの疾患に対して人工関節置換術を積極的に施行しています。関節痛がまだ日常生活を送るうえで、あまり支障がない症例にはリハビリテーションなどを中心とした保存療法も勧めています。手術に際しては術前の人工股関節3D計測システム(ZED Hip)や術中の膝ナビゲーションシステム(Knee Align)を用いて、より正確な手術ができるようになってきました。これにより、長期間にわたり、人工関節の機能が維持でき、また術後の疼痛や活動性の改善がより確かなものとなり、患者満足度の改善が得られるものと確信しています。

### ■脊椎外科(担当医：山下部長、大山、赤井)

当脊椎外科センターでは、脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニア、椎体骨折などに対して手術治療をおこなっています。また、高齢者に多い圧迫骨折に対してはMRIで予後不良因子がある場合には積極的にバルーン椎体形成術(BKP)を施行し、早期離床を可能としADLの低下をおこさないようにしています。

### ■肩関節外科(担当医：今井教授、山田、中村)

主に土曜日に滋賀医大整形外科教授今井先生が外来診療にあたり、午後からは関節鏡手術や人工肩関節手術をおこなっています。肩関節外科では最先端で専門性の高い医療を提供できる体制がととっています。

## 救急診療

日勤業務中は救急医と協力し、また時間外診療については当直医が24時間対応にあたり、その後常勤医に引き継がれる体制をとっています。

## 病診連携

可能な限り、受診当日にMRIやCTを撮影し、迅速な診断、治療を心がけております。前もって検査や外来の予約も可能ですので、医事課に連絡いただければスムーズな診療が可能です。入退院や転院の相談等も遠慮なくおこなっていただきたいと思います。それぞれの専門分野での外来診療予約が可能です。

## 手術治療

手術件数は年々増加傾向で2024年は819件、そして今年度は921件(外傷446件、関節外科164件、脊椎外科286件、その他25件)と過去最高を更新しました。手術内容の詳細は各グループの年報を参照ください。当院内科や外科、麻酔科、またグループの西宮渡辺心臓脳、血管センターのバックアップもあり合

併症のある高齢者の手術もより安全に施行できる体制がとられております。

## 来年の目標

2026年4月より大阪公立大の専攻医2名が交代となり、新たに脊椎外科志望の専門医1年目が1名、専攻医が2名赴任予定です。また、滋賀医大からは専門医1名と専攻医1名が交代となり、専攻医1名が新に赴任予定で、合計ではいままでの人員数を確保し、引き続き専門性の高い医療を提供できる体制が維持されます。整形外科疾患でお悩みの地域の患者さんに、安心、安全でより満足度の高い医療を実践すべく、日々努力してまいります。その結果、外来、入院、手術件数の増加につながればよいと考えています。これからも地域に密着した、誰からも信頼される整形外科を目指して、西宮渡辺病院整形外科チームとして全員で切磋琢磨し診療にあたっていきたくと考えています。

(安原 良典)

## 整形外科 手術件数(2025年1月～2025年12月)

|            |            |              |     |
|------------|------------|--------------|-----|
| 骨・関節<br>外傷 | 骨接合術       | 鎖骨・肩甲骨・肋骨・胸骨 | 18  |
|            |            | 上腕骨          | 39  |
|            |            | 前腕骨          | 58  |
|            |            | 手部           | 13  |
|            |            | 大腿骨(人工骨頭除く)  | 109 |
|            |            | 膝蓋骨・下腿骨      | 58  |
|            |            | 足部           | 4   |
|            |            | 骨盤           | 0   |
|            | 人工骨頭置換術    | 股関節          | 50  |
|            |            | その他          | 0   |
| 偽関節手術      |            | 0            |     |
| 抜釘         |            | 51           |     |
| その他        | 1次創外固定など   | 20           |     |
| 軟部組織<br>外傷 | 腱縫合術       | 上肢           | 12  |
|            |            | 下肢(アキレス腱)    | 7   |
|            | 開放創デブリートマン |              | 7   |
|            | その他        |              | 0   |
| 合計         |            |              | 446 |

|            |      |               |     |
|------------|------|---------------|-----|
| 骨・関節<br>外科 | 人工関節 | 全人工股関節置換術     | 49  |
|            |      | 全人工膝関節置換術     | 39  |
|            |      | 単顆型人工膝関節置換術   | 49  |
|            |      | 全人工肩関節置換術     | 6   |
|            | その他  | 感染、半月板、関節固定など | 21  |
| 合計         |      |               | 164 |

|        |         |    |
|--------|---------|----|
| 末梢神経外科 | 手根管症候群  | 2  |
|        | 肘部管症候群  | 0  |
|        | その他     | 0  |
| 腱手術    | 腱鞘切開術   | 10 |
|        | 腱移植・腱移行 | 0  |
|        | その他     | 0  |
| 腫瘍外科   | 良性腫瘍    | 0  |
|        | 悪性腫瘍    | 0  |
|        | その他     | 0  |
| 切断     | 上肢切断    | 0  |
|        | 下肢切断    | 13 |
| 合計     |         | 25 |

|      |            |    |
|------|------------|----|
| 脊椎外科 | 頸椎(前方固定)   | 0  |
|      | 頸椎(後方除圧)   | 20 |
|      | 頸椎(後方固定)   | 2  |
|      | 胸椎前方手術     | 0  |
|      | 胸椎後方除圧     | 1  |
|      | 胸椎後方固定     | 14 |
|      | 腰椎(前方固定)   | 1  |
|      | 腰椎(後方除圧)   | 12 |
|      | 腰椎(後方除圧固定) | 66 |
|      | 腰椎(内視鏡手術)  | 82 |
|      | 椎体形成術      | 81 |
|      | その他        | 7  |
|      | 合計         |    |

|    |     |
|----|-----|
| 総計 | 921 |
|----|-----|

# 整形外科 外傷グループ

副院長 正田 悦朗

西宮渡辺病院整形外科には大きく3つのグループがあります。人工関節センター、脊椎センターと外傷グループです。2025年には外傷グループのスタッフ及びレジデントで高齢者の骨粗鬆症をベースとした股関節周囲骨折、肩関節周囲骨折、手首の骨折などとともに比較的若い方の足関節周囲骨折、鎖骨骨折など約500件の手術を行いました。

骨折を中心とする外傷の治療はタイミングが非常に重要となります。受傷後早いに越したことはないのですが、局所の状態、全身状態、手術器械の準備、手術室の状況などで予定が決まっていきます。このように適切なタイミングで適切な治療を行うことで、治療結果にも差が出てきます。

特に高齢者の骨折では手術までに時間がかかってベッド上の期間が長くなれば、筋力が落ちて骨折前の状態に戻ることができないだけでなく、肺炎などの合併症の発生も多くなります。そのため、大腿骨近位部骨折に対しては、各国のガイドラインで48時間以内の手術が推奨されていること、48時間以降となると1年以内の死亡率が上昇することなどから、我が国でも2022年4月から受傷後48時間以内に行うことが推奨され、保険点数上も優遇されるようになりました。

当院でも整形外科スタッフの増加、麻酔科医の増加及び協力システム、手術室スタッフの充実、また他のメディカルスタッフの協力のもと、かなり意識して取り組み、早期手術が可能となっています。ただ、自宅や施設で様子を見られて何日か経ってから来院される方もまだ多くいらっしゃいます。骨折かもしれないと思う時に早く受診していただくシステムも必要と考えています。

また、これらの骨折は骨粗鬆症がベースとなっていますが、骨粗鬆症の治療は行われていないことがほとんどです。2022年4月から骨粗鬆症対策委員会(2次性骨折予防委員会)を立ち上げ、つぎの骨折を多職種で予防する取り組みをスタートしました。その効果については、骨粗鬆症学会や脆弱性骨折ネットワーク学術集会などの学会で発表してきましたが、開始前に比べて、手術待機期間が短くなっており、また術後の合併症や死亡率が低下していました。しかし、まだ不十分な部分もあり軌道修正を行いつつ、今後さらに充実したものにしていきたいと思っています。

なお、以前には重症の心臓疾患のある方が骨折した場合には、他院へその治療をお願いしていました。しかし、昨年からは法人内の連携を深め、西宮渡辺心臓脳・血管センターで手術が行えるようになってきました。心臓血管系の状態を循環器の専門の先生に診ていただきながら、手術や術後の経過をみていくことが可能となっています。状態が落ち着けば、また本院に戻りリハビリテーションを継続していきます。

2026年はさらに充実した外傷治療を目指したいと考えています。(正田 悦朗)

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 鎖骨骨折              | 18  |
| 上腕骨               | 39  |
| 近位                | 25  |
| 骨幹部               | 7   |
| 遠位                | 7   |
| 前腕                | 58  |
| 近位、肘頭             | 9   |
| 骨幹部               | 4   |
| 遠位                | 45  |
| 手部                | 13  |
| 大腿骨               | 176 |
| 頸部骨接合             | 23  |
| 頸部人工骨頭            | 50  |
| 頸部THA             | 17  |
| 転子部               | 72  |
| 骨幹部               | 2   |
| periprosthetic fx | 8   |
| 遠位                | 4   |
| 膝蓋骨、下腿            | 58  |
| 膝蓋骨               | 10  |
| 下腿                | 12  |
| 足関節               | 36  |
| 足部                | 4   |
| 偽関節手術             | 0   |
| 抜釘                | 51  |
| 腱縫合               | 19  |
| 上肢腱板              | 12  |
| 下肢アキレス腱           | 7   |
| 開放創               | 7   |
| 関節鏡               | 15  |
| 肩関節人工関節(RSA)      | 6   |
| 手根管症候群            | 2   |
| 腱鞘切開              | 10  |
| 下肢切断              | 13  |
| 1次的創外固定           | 17  |
| 関節炎               | 4   |
| 肩関節バンガード          | 2   |
| その他               | 2   |
| 骨切り               | 1   |
| 合計                | 515 |

# 西宮人工関節センター

顧問 福岡 慎一

2009年4月に当院に設立された人工関節センターも2024年に人工関節手術数が2,000例を突破しました。2025年4月から松下先生が関節外科として加わりましたが、6月には松浦先生が退職されています。

2025年の手術件数は全人工膝関節置換術(TKA) 39例、単顆型人工膝関節置換術(UKA) 49例、全人工股関節置換術(THA) 49例、合計137例となり、2024年に比して約20%増加しました。ホームページを含めたSNSの活用を積極的に行っていきます。

## 外来診療

関節専門外来は、火曜日午前と金曜日の午前に福岡、火曜日の午前と金曜日の午後に松下が担当しています。水曜日と金曜日の午後には大腿骨頭壊死、股関節および骨粗鬆症の権威である高岡名誉教授が骨粗鬆症外来をされておられます。もちろんこちらでも関節疾患の患者の受け入れをしています。

## 手術治療

当センターでは膝関節の症例に応じてUKA(単顆置換型人工膝関節)、CR型TKA(後十字靭帯温存型全人工膝関節)、PS型TKA(後十字靭帯切除型全人工膝関節)を施行しています。ポータブルナビゲーションを用いて、より正確な設置をし、患者満足度の向上を目指しています。

股関節においては術前に3D Templateを用い、脚長差とOffsetを両側揃えるように計画。カップは基本的にはセメント、スクリューを用いずに固定。関節面はwearの少ないCeramic on CeramicあるいはHighly Crosslinked PE on Ceramicを使用しています。

アプローチは基本的には前方アプローチ(OCM Approach)で筋腱を切除せずに、関節包を温存し縫合しています。Obesity、筋肉が発達している方、あるいは骨が脆弱な患者様には後方アプローチで施行しています。また、変形の強い症例には脚長を合わせ、脱臼予防にNeckを変換可能な機種を使用しています。

## 研究

2025年7月にJournal of ArthroplastyにAdvanced Varus Deformity Associated with Medial Knee Osteoarthritis is a Potential Predictor of Anterior Cruciate Ligament Tear and Risk for Suitable

Unicompartmental Knee Arthroplastyという英語論文がpublishされました。これは当科でのデータ解析の論文です。

人工関節の10年の生存率は95%以上です。10年以上は長期間になり、術後20年に向けて経過を調査していきます。また、当センターでは他の施設とも共同研究を行い、データを解析していきます。

2025年は国際学会では9月にイタリアのローマで開催されたISTAで発表しました。

国内では2月名古屋での日本人工関節学会、7月京都での日本関節病学会、12月姫路での日本膝関節学会で発表しました。

2月に名古屋で、7月に福岡でのセミナーで発表しました。

毎週水曜日の朝には抄読会を行い、世界の最先端の情報を共有できるようにしています。金曜日の朝にはカンファレンスを行い、各症例について整形外科全員で議論しています。

## 次年度の目標

2026年は国際学会として6月にイギリスのロンドンで開催されるEularに発表予定です。

国内では2月に大阪での日本人工関節学会、7月に横浜での日本関節病学会、12月に東京での日本膝関節学会で発表予定です。

講演では2月大阪でPartial Knee Arthroplasty Seminar、7月に神戸で開催される日本臨床整形外科学会のランチョンセミナー、8月に札幌で開催予定のOxford Partial Knee Instructional Course, Master Courseで発表予定です。

研究成果を国内に留まらず、海外にも積極的に学会発表し、英語論文にもしていきたいと考えています。

当センターでは術後10年以上の症例も出てきており、長期成績も調査していきます。

また、看護部やリハビリテーション部での発表も行い、人工関節センターとして医師だけでなく、チームとして取り組んでいき、その成果を発表したいと考えています。

(福岡 慎一)

# 西宮脊椎センター

センター長 山下 智也

西宮地域において高いレベルの脊椎治療を行うため2020年10月より常勤医による西宮脊椎センターを開設し5年が経過いたしました。近隣の先生方には多くの患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。おかげさまで年間手術件数はセンター開設後大幅に増加しております。引き続き積極的な脊椎治療を行ってまいります。

当院では、苦痛を感じている患者さんの負担軽減のため、

- ①CT、MRIを受診当日に行うことによる迅速な診断
- ②ごく短い手術待機期間
- ③手術後は転院することなく回復期リハビリ病棟へ入院を行っております。

病状、治療法については、患者さんに御理解いただけるよう詳しく説明いたします。

## 外来診療

月曜：山下(午後)

木曜：山下(午前・午後)

診察日以外でも急ぐ患者さんをご紹介いただいております。

## 手術治療

手術は低侵襲手術を原則とし、2025年からはより低侵襲な内視鏡であるUBEを開始し、すでに60例以上行っております。現在は腰椎の除圧術はほぼ全例UBEとなっておりますが、病状によっては確実かつ安全な手術のためには従来のオープン手術を行います。

頸椎、胸椎、腰椎の変性疾患、外傷、腫瘍性疾患に対応できます。手術が必要な若年者の側弯は専門の病院へ紹介させていただきます。内視鏡・顕微鏡および経皮的椎弓根スクリュー、Balloon Kyphoplastyなどによる低侵襲手術を行います。80歳を超える患者さんに対しても十分な評価の上、積極的に手術加療を行っております。

手術件数は脊椎センター開設前は60件ほどでしたが、センター開設後は2020年が106件、2021年は147件、2022年は223件、2023年は195件、2024年248件、2025年286件と増加しています。

|           |                |     |
|-----------|----------------|-----|
| 頸髄症       | 椎弓形成術          | 18  |
|           | 除圧固定術          | 2   |
| 頸椎症性神経根症  | 椎間孔拡大術         | 2   |
| 腰部脊柱管狭窄症  | 開窓術            | 12  |
|           | 内視鏡下椎弓形成術(MEL) | 3   |
|           | 内視鏡下椎弓形成術(UBE) | 31  |
|           | 後方進入椎体間固定術     | 53  |
| 胸椎症性脊髄症   | 椎弓切除術          | 1   |
|           | 除圧固定術          | 4   |
| 腰椎椎間板ヘルニア | 内視鏡下髄核摘出術(MED) | 23  |
|           | 内視鏡下髄核摘出術(UBE) | 25  |
| 胸腰椎圧迫骨折   | 経皮的椎体形成術単独     | 81  |
|           | 経皮的椎体形成術+後方固定  | 22  |
| その他       |                | 9   |
| 2025年合計   |                | 286 |

## 来年の目標

西宮エリアの脊椎治療の中心となるべく頑張ります。急いで治療する必要のある患者さん、治療に難渋している患者さん、他院での手術後経過不良例など、近隣の先生方がお困りの際には是非お気軽にご紹介いただければと存じます。迅速、丁寧に対応させていただきます。手術件数のさらなる増加、近隣病院での対応困難な症例にも安全かつ丁寧な手術により積極的に対応してまいります。

(山下 智也)

# 感染症内科

副理事長 兼 副院長 兼 感染症内科統括部長 佐々木 俊治

## はじめに：地域における感染症診療の拠点として

COVID-19やインフルエンザが季節を問わず流行し、感染症診療が日常化する中で、その重要性はかつてないほど高まっています。当科は西宮市でほぼ唯一「**感染症科**」を標榜する医療機関として、専門的な知見に基づき、診断困難な不明熱症例や、さらには感染症の疑いがある全症例に対して真摯に向き合っておりま

した(下記診断例)。  
肺炎球菌性肺炎 膿胸 肺化膿症 扁桃炎 扁桃周囲膿瘍 感染性心内膜炎 肝膿瘍 前立腺炎 化膿生関節炎 淋菌感染症 梅毒 リウマチ性多発筋痛症 結節性多発動脈炎 薬剤熱 悪性リンパ腫 癌の多発転移 甲状腺機能亢進症 副腎不全 結核 COVID-19 インフルエンザなど

## 院内における質の高い感染制御の実践

臨床現場においては、単なる診察にとどまらず、質の高い「感染症コンサルテーション」を軸に活動を展開しました。

- 血液培養陽性症例への介入：迅速な初期治療の最適化を行い、予後の改善に努めました。

- 広域抗菌薬適正使用の推進：薬剤耐性(AMR)対策の観点から、症例ごとの介入を行い、効果的かつ副作用を最小限に抑える治療を徹底しました。

## 地域連携と教育活動の広がり

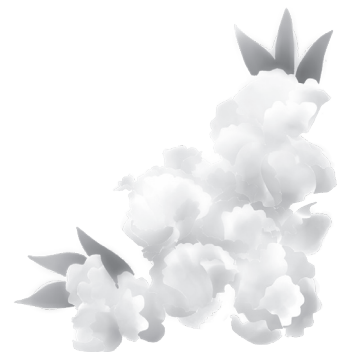
当科の役割は院内にとどまりません。昨年に引き続き、法人内外の施設に対して感染対策のアドバイスを実施しました。また、地域の感染対策連携会議等でのレクチャーを通じ、地域全体の「感染対策の底上げ」に寄与する機会を数多くいただいたことは、当科にとっても大きな財産となりました。専門知を地域へ還元することは、当科の重要な使命であると考えております。

## 未来に向けた展望：さらなる体制強化

2025年度からは大阪大学感染症科より非常勤医師を迎え、より多角的な視点での診療・指導体制を構築しました。さらに、2026年度からは「抗菌薬投与に係る特定行為」\*\*の開始を予定しております。これにより、よりタイムリーで高度な抗菌薬適正使用(Antimicrobial Stewardship)が可能となります。

今後も、法人内および地域全体における抗菌薬適正使用のリーダーシップを取り、患者様が安心して治療を受けられる環境づくりに邁進してまいります。

(佐々木 俊治)



## 救急総合診療科

部長 坂口 治

### 総括、目標

救急総合診療科は、毎年2,000台以上の救急車の受け入れを行なっています。

診療の中心は救急患者の受け入れになりますが、救急車ばかりではなく、突然ご自分で病院に来院された緊急処置を必要とする患者さんも対象となります。まず初期診断、初期治療を行い、各科の専門医師に引き継いでいくシステムです。一つの病気にとらわれることなく、重複する疾患や各科にまたがる外傷を総合的に診て、最も患者さんに有利な道を探して行きます。複数の診療科に担当医をお願いして、総合的に治療を行う必要性のある患者さんも多くいらっしゃいます。各科の協力なくして成り立たない診療科であり、他科の先生方にはかなりの負担をおかけしております。

地域の医療にとって、救急疾患診療は極めて重要であることは言うまでもなく、少しでも地域の皆様の健康に寄与できれば幸いです。

今後も安全、安心の医療を届けて行きたいと考えております。

### 2025年実績

2025年1月1日～2025年12月31日の間の救急車

受け入れ件数： 2,259件

(坂口 治)

## 消化器内科

院長 猪熊 哲朗

### 診療体制

消化器内科常勤医師は、現状では猪熊のみですが、外科常勤医師と協力して消化器疾患の入院診療にあたっています。外来診療・内視鏡検査については、兵庫医科大学、近畿大学、大阪公立大学、神戸市立医療センター中央市民病院などから非常勤医師の応援をいただき、対応しております。消化器疾患は緊急性の高い病態も多く、当院では、夜間・時間外を含めて救急対応をおこなっております。

特に、内視鏡検査は、令和5年に新設された内視鏡センターにて、最新型の内視鏡システムを導入し、鎮静剤を使用し苦痛の少ない検査を受けていただけます。具体的には、オリンパス社最上位機種である「EVIS-X1」を導入、スコープも上部・下部合わせて15本の最新型機種で、拡大観察・特殊光観察も可能です。ご希望の方には経鼻内視鏡も準備しております。また、AIを活用した内視鏡画像診断支援ソフトウェア「Endo BRAIN」を導入し、大腸腫瘍の検出から深達度診断の精度向上を図っています。

ご希望の方には、超短時間作用性鎮静剤(アネレム<sup>®</sup>)を使用しており、検査中は、患者さんは寝ていることが多く、ほとんどの方が、苦痛は感じなかったとおっしゃいます。

検査件数も増加傾向にあり、昨年は上部1,400件・下部500件を超えました。

近隣の医療機関からの検査依頼も積極的にお受けしております。

高齢者の慢性肝炎患者は少なくなく、私自身が肝臓専門医でもあり、肝炎スクリーニング・B型およびC型肝炎の抗ウイルス療法も積極的に導入しています。

### 今後の展望

本年には、常勤医師の追加採用が予定されており、診療体制の充実を図ります。炎症性腸疾患、肝臓疾患などの専門外来も開設する予定です。

(猪熊 哲朗)

# 呼吸器内科

部長 好村 研二

## 外 来

COPD・喘息・細菌性肺炎・間質性肺炎の診断と治療、肺癌の画像診断を積極的に行っています。採血(一部外注検査を除く)・血液ガス分析・呼気ガス分析(呼気中一酸化窒素測定)・呼吸機能検査・レントゲン・CT検査は診察日に実施し、当日に結果説明させていただきます。外来：火曜日・木曜日AM(好村)、金曜日AM/PM(富井)、第2・4土曜日AM(仲谷)。

当院ではインフルエンザの抗原定性検査(約15分間で判定)、マイコプラズマの抗原検査(約30分間で判定)、新型コロナウイルス感染症に対して、抗原定性検査(約15分間で判定)・抗原定量検査(PCR法とほぼ同等の感度・特異度、約40分間で判定)・遺伝子検査(ID NOW：NEAR法による等温核酸増幅法、PCR法とほぼ同等の感度・特異度、約20分間で判定)、および院内PCR検査(約1時間で判定)を導入しており、受診当日でもPCR検査と同等の精度で新型コロナウイルス感染症を診断することが可能です。発熱患者様は一般の患者様とは動線を分けなくてはなりませんので、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の鑑別を希望する旨を事前予約の上でご紹介いただければ幸いです。また、呼吸器症状の遷延するLong COVID患者様の精査加療も可能ですので、ご紹介いただければ幸いです。

## 入 院

主に呼吸器感染症・COPD・喘息・間質性肺炎・気胸/膿胸などの診療を行っております。呼吸器悪性疾患が疑わしい場合は西宮市立中央病院や兵庫医科大学病院へご紹介させていただきます。特に、高齢者の誤嚥性肺炎に対する嚥下機能評価として、耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・看護部と連携した嚥下内視鏡検査・排痰リハビリなどを行っております。嚥下内視鏡検査は鼻から喉頭ファイバースコープを挿入した状態で、患者さんに着色水や検査用食品を実際に摂取してもらい、嚥下前後の咽頭喉頭腔の状態を直接観察・動画撮影することで多角的嚥下評価が可能となり、食事形態の調整や胃瘻造設までの治療方針決定および病状説明をより正確に行えるようになります。

| 2025年 入院患者            | 件数 |
|-----------------------|----|
| 呼吸器感染症                | 52 |
| 慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息・気管支拡張症 | 28 |
| 間質性肺疾患                | 11 |
| 気胸・膿胸                 | 13 |
| 悪性新生物                 | 7  |
| その他                   | 17 |

## 検 査

| 2025年 | 嚥下内視鏡検査 |
|-------|---------|
| 件数    | 130     |

## 来年の目標

大阪公立大学 呼吸器内科学と連携した呼吸器内科領域専門研修の連携病院であり、昨今の呼吸器感染症の増加の中で、呼吸器内科の役割や責任は重大であると痛感しておりますので、今まで培った呼吸器内科としての経験を活かして、専門性の高い医療を提供できるように頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

(好村 研二)

## 外科（一般・消化器）

副部長 大谷 雅樹、住井 敦彦、医員 松原 孝明

### 診療体制

当科では2025年4月から常勤医師3人と非常勤医師1人の4人体制で診療を行っています。外来診療は、月曜午後に大谷医師、火曜午前に池田医師、水曜午前に住井医師、金曜午前に松原医師が担当しています。外来診療がない日でも、緊急を要する消化器疾患の対応は随時受け付けており、緊急手術や緊急消化管内視鏡、また必要に応じて高次機能病院への転院などスムーズな対応が可能です。入院診療は主治医制としていますが消化器内科、救急科との合同カンファレンスを定期的で開催し治療内容を共有していますので常に病態に合わせた最適な医療が提供できるように心がけています。

### 診療内容

治療可能な疾患は、胃癌、大腸癌をはじめとした消化器悪性疾患はもちろん、消化管穿孔や憩室炎、虫垂炎、腸閉塞、胆嚢炎といった急性腹症、また鼠径ヘルニア、痔核、中心静脈ポートや胃瘻造設などに対応しています。手術は低侵襲な腹腔鏡手術を基本として病態に応じて術式を決定します。悪性疾患の治療については手術から化学療法、緩和ケアまで一貫して当科で対応しており切れ目のない治療を行っています。

### 今後の展望

2025年の手術実績は全身腰椎麻酔手術件数が338件と前年比2倍超の大幅な増加となりました。手術件数増加の要因として、まずは勝呂クリニック・勝呂先生による肛門手術の導入が挙げられます。今年は肛門手術を134件（前年は8件）行いました。また、肛門手術を除いた全身腰椎麻酔手術件数も205件（前年は159件）と50件程増加しており、手術件数は右肩上がりです。緊急手術も積極的に行っており、61件（前年は38件）と増加しております。今後も必要であれば24時間365日緊急手術対応致しますので、いつでも当院外科までご相談ください。当院内他科はもちろん、法人関連施設である心臓脳・血管センターやリハビリテーション病院、グループホーム等との連携強化の成果に加え、関連病院である兵庫医大病院や近隣の病院・クリニックから多数のご紹介を頂けるようになったことが手術件数増加の要因として考えられます。現状に奢ることなく患者様に最適な医療を提供できますようより一層の努力をして参ります。

2026年度にはDa Vinci 5の当院導入が決まっております。今後はロボット手術を順次拡大していく予定です。より良い医療を提供できる体制が整いますので、引き続き宜しくお願いいたします。

（大谷 雅樹）



表1 2025年 1-12月

| 手術症例     | 総数  | うち腹腔鏡 |
|----------|-----|-------|
|          |     | 423   |
| 胃        | 6   | 2     |
| 小腸       | 30  | 13    |
| 結腸 直腸    | 73  | 63    |
| 胆嚢       | 18  | 18    |
| 虫垂       | 19  | 19    |
| ヘルニアの手術  | 52  | 41    |
| その他の腹部手術 | 7   | 7     |
| 肛門       | 134 | 0     |
| 乳腺       | 1   | 0     |
| 皮膚軟部     | 22  | 0     |
| 胃瘻造設     | 61  | 0     |

図2

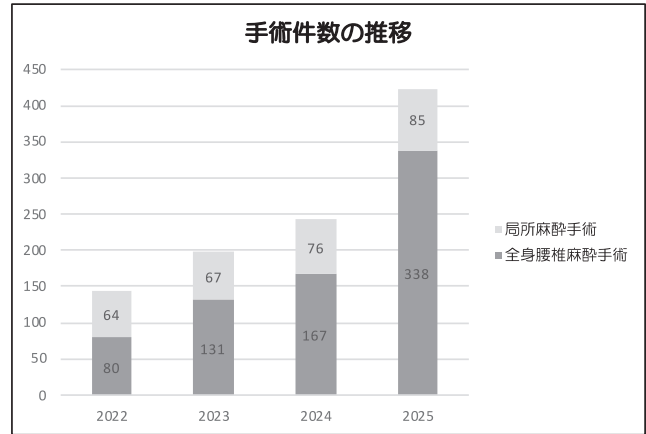


図3

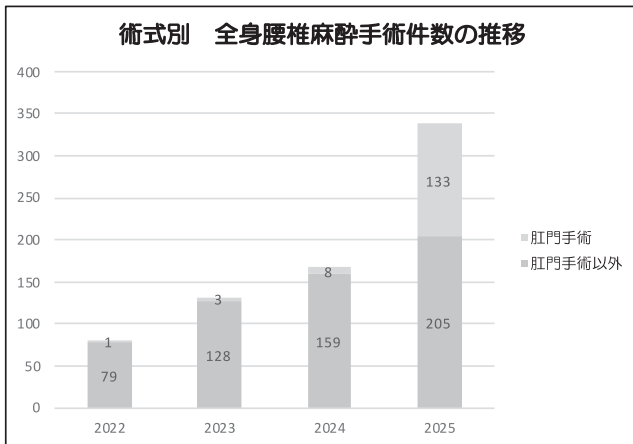


図4

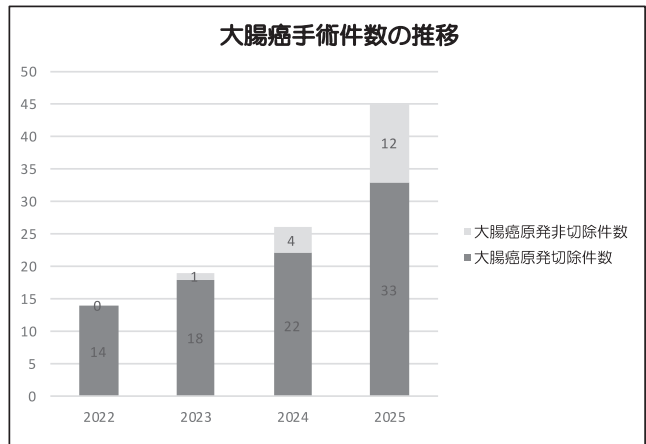
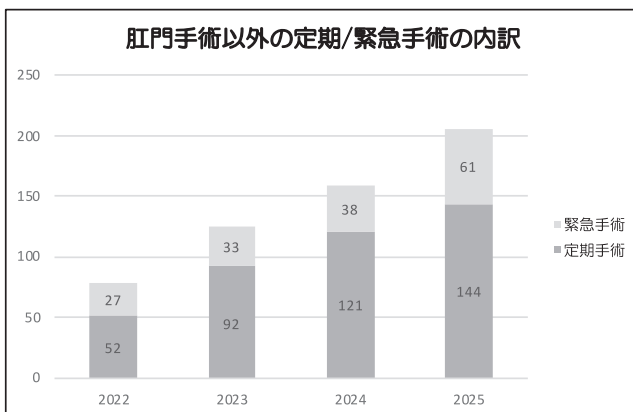


図5



# 糖尿病内科

部長 角田 拓

## 診療体制

外来は、専門知識と経験を有する、常勤医師1名、非常勤医師5名で、月曜日から木曜日の午前・午後および金曜日午前で診療を行っております。

|    | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 午前 | 玉井  | 角田  | 角田  | 八幡  | 小山  |
| 午後 | 角田  | 伊藤  |     | 北風  |     |

糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病の診断および治療を行っております。

血糖コントロール目的での入院や、急性の合併症である糖尿病性ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群の治療も行っております。

また、他疾患で入院中の高血糖および低血糖、電解質異常などについても対応を行っております。

生活習慣病については、看護師、療養指導士、管理栄養士、薬剤師とともに、チーム医療により治療のお手伝いをさせていただいております。

甲状腺疾患、副甲状腺疾患、下垂体疾患、副腎疾患などの内分泌疾患についても可能な限りではありますが、診断および治療を行っており、入院での精査が必要と判断された場合は兵庫医科大学病院や兵庫県立西宮病院などへ御紹介させていただいております。

## 来年の目標

入院診療については、2024年4月より開始となりましたが、血糖コントロール目的での入院患者数は少なく、引き続き地域の医院、医療機関に周知していきたいと思っております。

昨今、新規の糖尿病治療薬の発売が目まぐるしく、使用する薬剤の選択肢が増えた一方で、薬剤の選択方法が複雑かつ難しくなっております。薬剤調整を含め、治療に難渋している患者様がおられましたら、紹介していただければと思います。

また、糖尿病治療の目的は、糖尿病に伴う合併症の発症と進展を防ぐことにあり、各診療科との連携も重要となります。当院はこの数年で診療科が充実してきており、他科および他職種との連携を行いながら、当地域における糖尿病を中心とした生活習慣病の診療に貢献できるように努めていきたいと思っております。

(角田 拓)



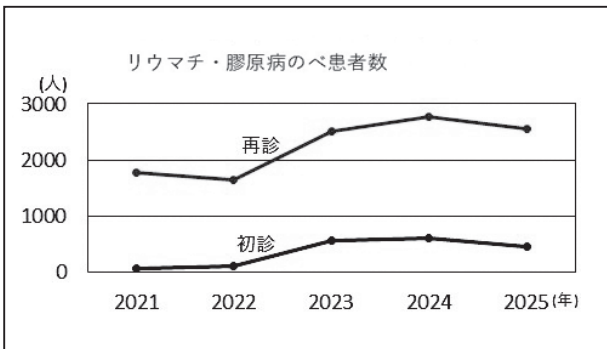
# リウマチ科

リウマチ・膠原病センター センター長 船内 正憲

## 総括

本年度から新しく関西医科大学リウマチ膠原病科から孫 瑛洙、辻 良平 両医師を迎え、私を含めて常勤医3名と非常勤の佐野 統、重坂 実 両医師の2名で、外来と病棟診療を行っている。リウマチ膠原病センターが担当した過去5年間の外来患者数の推移を図1に示す。初診患者の来院の経緯は、この地域の中核病院である兵庫医科大学病院(膠原病内科)で診断・治療が行われて経過が安定し、今後の治療を依頼されたり、近隣のクリニックからご紹介頂いた、あるいは、インターネットなどで検索して来院したり、など様々であるが、初診、再診ともに患者数は大幅に増加し、2024年度以降は2021年度の約2倍となっている。

図1 初診および再診患者数の推移(1月～12月)



外来患者数の内訳をみると、膠原病患者の3分の2は関節リウマチ(RA)で、緩やかに増加している(図2)。関節リウマチ以外の膠原病では全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症が上位を占め、いずれも増加傾向にあり、その他の筋炎症候群、血管炎症候群、強皮症も緩やかに増加している(図3)。

図2 関節リウマチ外来患者数の推移

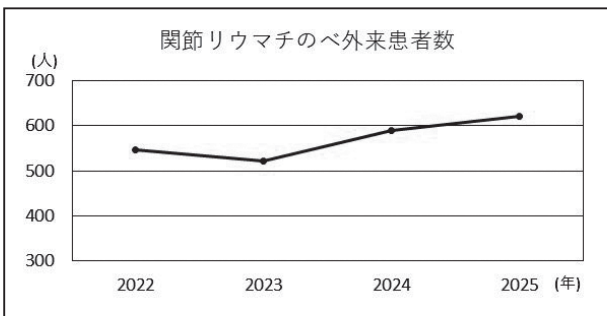
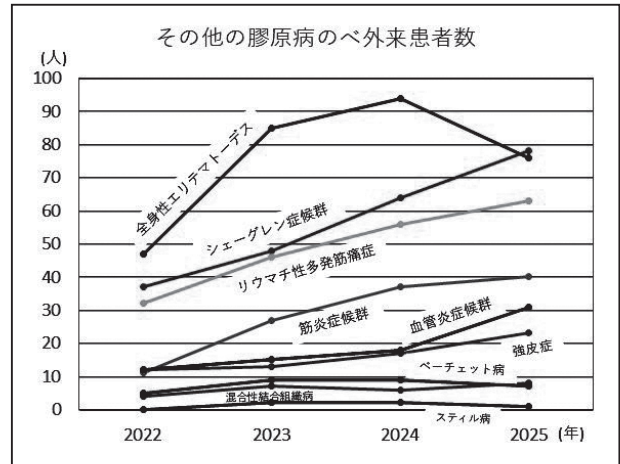


図3 その他の膠原病外来患者数の推移



膠原病の入院患者数では関節リウマチに大きな変動は見られないが、リウマチ性多発筋痛症、血管炎症候群、全身性エリテマトーデスの患者数が増加傾向にある(図4、図5)。

図4 関節リウマチ入院患者数の推移

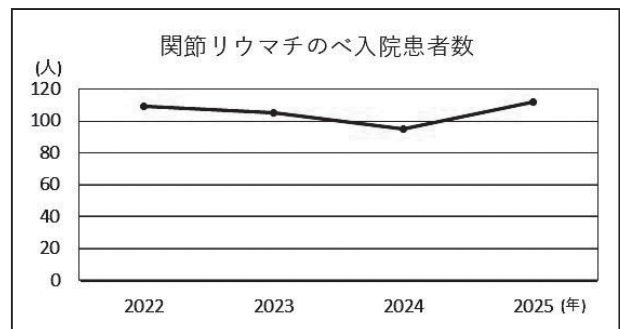
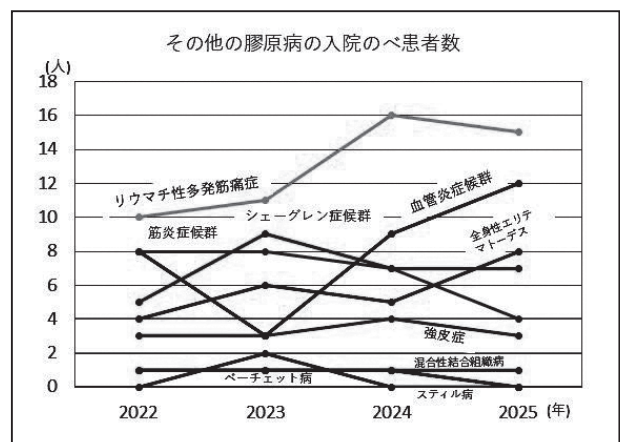


図5 その他の膠原病入院患者数の推移



膠原病の入院患者数は外来通院患者数の1割内外であるが、これらの症例は病状が一旦悪化すると、普段、免疫抑制作用のある薬剤を多用しているため、感染症を合併し重症化し、種々の合併症もあり入院期間も長くなることが多い。ましてや医療・介護関連感染症やCOVID-19やインフルエンザの蔓延などが大きく病状に影響し、常に警戒する必要がある。

当科専門領域の疾患は、免疫異常を基盤に発症するため、特定の臓器障害に止まらない。そのためしばしば多彩な臓器障害を来す。従前から加わった眼科、歯科口腔外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、婦人科をはじめ多くの院内部署のスタッフから頻回のご指導を受けて当科の運営が一層患者friendlyになってきていると思う。

## 来年の目標

リウマチ・膠原病の特徴は院内外に徐々に浸透しつつあると思われる。来年度も膠原病の周知を図るとともに、他職種のスタッフと一層の連携をとって診療に当たりたい。とりわけ、リウマチの治療に際し、当院の豊富なりハビリテーション・スタッフによる理学療法の意義を明らかにする目的で、その適応、施療方法とその評価方法など、社会福祉制度も含めて検討してゆく。

(船内 正憲)



# メンタルヘルス科（心療・神経科）

理事長 佐々木 恭子、 部長 佐々木 祥子

精神疾患診療体制加算、認知症加算、精神科リエゾンチーム加算、これに加え今後リエゾンとして或いはチーム医療の一員として介入が望まれる生活習慣病や高度肥満、高齢者における拒食や栄養障害、緩和医療と精神科医療は2026年度の診療報酬改訂に於いても重要課題とも聞いています。一般病院に於いて精神科医療の需要は高まるばかりである一方で精神科病棟に於いては身体疾患への対応が求められるという超高齢化社会の医療事情です。

非常勤医師の入れ替わりはありましたが、国道2号線沿いの西宮渡辺心臓脳・血管センター 健康館一階外来で開設した週2コマの児童精神の専門外来も順調に推移しています。

日々の診療からは老若男女を問わず家族や地域コミュニティの崩壊の中で暮らす孤独と無力感、将来が見えない不安、優しさを失った社会は自浄作用を失い、健康長寿を目標とした生活支援型医療には精神科医療の介入が欠かせぬ時代を向かえています。次年度も地域医療を担う病院の一員としての立ち位置を見失わず努力を行おうと考えています。

よろしくお願い致します。

(佐々木 恭子)

## ーメンタルヘルス科の医師からのメッセージー

当院では、精神科一般外来、法人内施設への精神科往診、精神科リエゾンチームおよび認知症ケアチームでの診療、児童精神科専門外来など、幅広い精神科医療を実施しています。

児童から高齢者まで多様なニーズに対応し、すべての患者様が安心して医療を受けられるよう尽力してまいります。

(佐々木 祥子)

昨年に引き続き、火曜日の午前診を担当させて頂いております。当外来の主な患者層としましては睡眠障害・統合失調症・うつ病・双極性障害・認知症に加え、数年前まで当外来枠を兵庫医科大学病院精神科神経科教授である松永寿人先生がご担当しておられましたので強迫性障害の患者様も診療させて頂いております。今後とも皆様のお役に立てるように精進してまいります。

(日下部 新)

## 外来診療表

### 西宮渡辺病院

午前 受付時間：8:30～11:30 診療開始：9:00～12:00

| 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日                 |
|-----|-----|-----|-----|-----|---------------------|
| 眞壁  | 日下部 |     |     |     | 佐々木(祥)<br>小林(第2,4週) |

午後 受付時間：13:45～16:30 診療開始：14:00～17:00

| 月曜日    | 火曜日              | 水曜日                            | 木曜日                           | 金曜日 | 土曜日 |
|--------|------------------|--------------------------------|-------------------------------|-----|-----|
| 佐々木(祥) | 佐々木(理事長)<br>◎予約診 | ☆佐々木(理事長)<br>【予約外】<br>診察14:00～ | 佐々木(理事長)<br>◎予約診<br>(第2,4週のみ) |     |     |

◎ 予約料 2,750円

☆水曜日の心療内科は、窓口での受付を8:30から行います(診察は14時開始)。なお、お電話での受付は10時から行います。

### 西宮渡辺心臓脳・血管センター（6月より、児童精神科外来は、勝呂クリニックにて行います）

午前 受付時間：8:30～11:30 診療開始：9:00～12:00

| 月曜日 | 火曜日      | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日 |
|-----|----------|-----|-----|-----|-----|
|     | 白瀧(児童精神) |     |     |     |     |

午後 受付時間：13:45～16:30 診療開始：14:00～17:00

| 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日                | 金曜日 | 土曜日 |
|-----|-----|-----|--------------------|-----|-----|
|     |     |     | 白瀧(児童精神)<br>佐々木(祥) |     |     |

# 放射線科

放射線科医師 金 東石

## 目標と理念

西宮渡辺病院本院の放射線科に、2024年9月に着任しました。主にCT、MRIの画像診断を担当しています。診療放射線技師17名と協力しながら、低侵襲で安全な検査の施行、正確な画像診断を目標としています。技術部門では、CT、MRIの他に一般撮影、マンモグラフィ、透視検査、骨塩定量検査、術中透視などを担当しています。シーメンス社製の最新の超高磁場3.0テスラMRIとマルチスライスCTが導入されており、近隣の医療施設からの画像検査依頼にも対応し、医療連携に協力していきたいと思えます。最新の医療機器を用いて安全な検査と的確な画像診断を行うように心がけ、患者さんの信頼と満足の向上に努めてまいります。

## 活動内容

一般撮影装置：島津製作所  
 フラットパネルシステム：富士フィルムメディカル  
 FCRシステム：富士フィルムメディカル  
 X線TV装置：富士フィルムヘルスケアシステムズ  
 X線CT装置：シーメンスヘルスケア  
 MRI装置：シーメンスヘルスケア  
 マンモグラフィ装置：シーメンスヘルスケア  
 骨密度測定装置：GEヘルスケア  
 手術室用 イメージ装置 2台：GEヘルスケア／島津製作所／シーメンスヘルスケア  
 ポータブル X線撮影装置 2台：富士フィルムヘルスケアシステムズ  
 ドライレーザーイメージャー 2台：富士フィルムメディカル  
 解析ソフト 2種類：Zio station2／シーメンスヘルスケア  
 PACS：ASTRO STAGE  
 オーダーリングシステム：ASTRO STAGE

## 検査件数

X線単純撮影、CT、MRI、マンモグラフィで昨年に比べて検査数が増加しています。CTとMRIの検査数が前年比でそれぞれ約8%と20%と検査数の増加が顕著ですが、これは院内からの検査依頼の増加だけでなく、近隣の医療施設からの検査依頼の増加が起因しています。造影CT・MRI検査では、患者さんの腎機能やアレルギー・副作用歴のチェックを行い、安全性に留意しています。昨年と同様、今年も重症副作用なく施行できましたが、副作用が生じた場合も救急診療総合科と連携し対処しています。

## 来年の目標

CTとMRIの検査数の増加が顕著であり、緊急検査への対応が問題となる場合があり、今後は心臓脳・血管センターの放射線科とも連携を強化し、院内の検査の需要の増加に対応するとともに、地域医療機関からの検査依頼にも親切丁寧に対応してまいります。また、PACSシステムの更新が近々予定されており、円滑な更新を行えるようにしたいと思います。

(金 東石)

## 検査件数

|       | X線単純撮影 | X線CT  | MRI   | 骨密度   | マンモグラフィ | 健診胃バリウム検査<br>その他造影透視検査 |
|-------|--------|-------|-------|-------|---------|------------------------|
| 2023年 | 16,265 | 7,013 | 2,195 | 1,476 | 79      | 488                    |
| 2024年 | 17,222 | 7,334 | 2,586 | 1,523 | 111     | 512                    |
| 2025年 | 19,584 | 7,924 | 3,099 | 1,518 | 164     | 513                    |

# 耳鼻咽喉科

部長 北野 正之

## はじめに

令和7年1月より、西宮渡辺病院耳鼻咽喉科の常勤医として着任いたしました。本年度は当科における診療体制の再構築と、地域に根差した専門的医療の提供に邁進した1年となりました。着任当初と比較し、徐々に外来・入院ともに患者数は増加傾向にあり、来年度もさらなる診療内容の拡充を行えればと考えています。

## 外来診療

現在、火・木・金曜日は常勤医(北野)が担当し、その他の曜日は関西医科大学より医師を招聘することで、月曜日から土曜日まで毎日欠かすことなく耳鼻咽喉科外来を維持できる体制が整っております。近隣の医療機関からの紹介患者数も着実に増加してきています。地域のニーズにお応えできるよう外来診療してまいります。

## 手術および入院診療

本年度は手術機器の選定・導入に時間を要しましたが、環境整備完了後は、耳・鼻・咽喉頭・頭頸部の良性疾患を中心に、幅広い手術に対応可能な体制を構築しました。その結果、年度後半からの稼働であったものの、年間26件の手術を完遂することができました。入院診療においては、手術目的のほか、突発性難聴や急性感染症などによる緊急入院を含め、延べ52人の入院管理を行いました。また、当科の特色として他科入院患者への嚥下機能評価にも注力しております。本年度は203件の嚥下機能検査を実施し、誤嚥性肺炎の予防や経口摂取維持に向けた多職種連携を推進、病院全体の入院管理の質向上に寄与いたしました。

## 今後の展望

次年度は、構築した手術体制をフルに活用し、さらなる症例数の拡大を目指します。また、地域医療連携をより一層強化し、「耳鼻咽喉科疾患ならまずは西宮渡辺病院へ」と信頼いただけるよう、誠実かつ迅速な診療に努めてまいります。

(北野 正之)

## 2025年の手術件数

|           |    |
|-----------|----|
| 耳科手術      | 計  |
| 鼓室形成術     | 1  |
| 鼓膜チューブ留置術 | 0  |
|           |    |
| 鼻副鼻腔手術    | 計  |
| 内視鏡下副鼻腔手術 | 9  |
| 鼻中隔矯正術    | 4  |
| 下鼻甲介骨切除術  | 9  |
|           |    |
| 口腔・咽喉頭手術  | 計  |
| 口蓋扁桃的術術   | 0  |
| 軟口蓋形成術    | 0  |
|           |    |
| 頭頸部手術     | 計  |
| 頸部良性腫瘍手術  | 1  |
| 気管切開術     | 1  |
| 気管孔閉鎖術    | 1  |
|           | 26 |

# 眼科

依藤 彰記

## 診療体制

当科では、月曜日から木曜日は常勤医1名と視能訓練士4名による外来診療体制とし、土曜日は非常勤医師の協力のもと診療を行っています。一般眼科診療を基盤とし、必要に応じて速やかに専門外来へつなぐ診療体制を整えています。また、糖尿病内科、膠原病内科、心臓血管外科等の院内他科と連携し、全身疾患に伴う眼疾患の継続フォローも行っております。

- ・月曜～木曜：常勤医1名
- ・土曜：非常勤医にて午前の外来診療
- ・木曜午後：病院関連施設への往診
- ・専門外来としては下記外来枠を設けております。

五味教授：網膜疾患(月1回、第3木曜日)

佐藤医師：網膜硝子体手術症例

(第2,4の火曜日12:30～13:00)

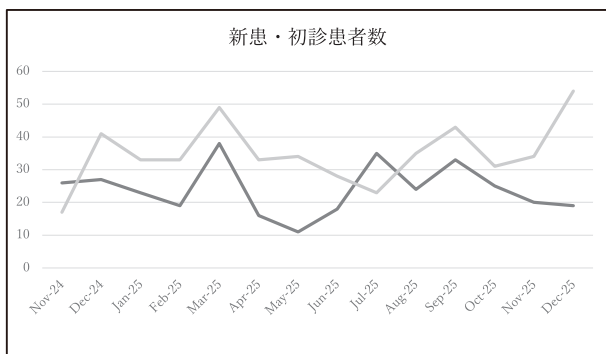
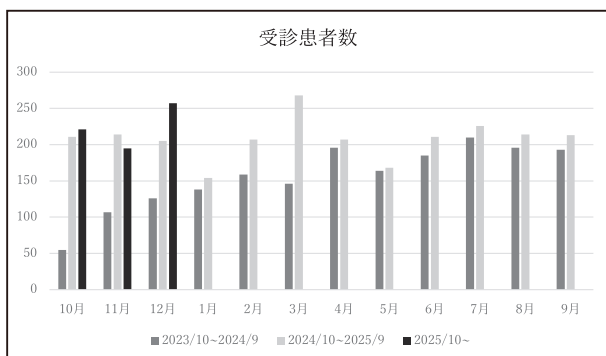
※完全予約制)

吉村医師：眼瞼(第4金曜午前)

望月医師：斜視(第1土曜午前)

## 外来実績

外来受診患者数に波はありますが増加傾向にあり、新規患者の受診も継続的にみられています。短期的な手術症例増加には直結しないものの、当院の認知が徐々に広がり、将来的な患者基盤の拡充につながるものと思われま



## 手術実績

手術日は火曜の午後、眼瞼・前眼部手術のみ月1回の金曜の午前としております。

|            | 2024年 | 2025年 |
|------------|-------|-------|
| 白内障手術      | 79    | 79    |
| 角膜移植手術     | 7     | 9     |
| 斜視手術       | 16    | 19    |
| 眼瞼手術+前眼部手術 | 12    | 23    |
| 硝子体注射      | 26    | 42    |
| レーザー手術     | 8     | 30    |

手術件数全体としては、前年の136%となりました。白内障手術件数は横ばいですが、昨年は、院内通院患者において自然経過の中で手術適応となった症例が大半であったのが、本年は手術目的での自己初診例が大半を占め、少数ながら難症例、並びに入院手術を希望され近隣クリニックより紹介された症例も含まれていました。また、眼瞼・斜視手術加療についても紹介受診による症例が大半を占めており、当院の取り組みが少しずつ地域に浸透し、近隣医療施設との連携が進んできていることを実感しております。

## 来年の目標

本院および血管センターの既存患者の中にも、見え方に不安を感じながらも眼科受診に至っていない方がまだ少なからず存在すると考えています。「歳だから」と我慢されがちで、日常生活の中での「見にくさ」や小さな困りごとにも寄り添う、相談しやすい眼科診療を目指していきたく思います。今後もスタッフと協力しながら、まずは院内から啓発活動を行い、視機能の維持・改善を通じた地域の皆様のQOL向上に貢献していきたくと考えています。

(依藤 彰記)

# 歯科口腔外科

部長 梨 正典

## 1年間の診療についての総括および2026年の目標

歯科口腔外科は、地域の先生方からの紹介診療と、急性期医療を支える周術期口腔機能管理を柱に、外来から入院・手術まで一貫した対応を行っています。私は2025年2月に着任し、診療体制の再整備と地域連携の再構築を最優先課題として取り組んでまいりました。院内外に当科の診療内容と相談窓口を明確にし、紹介の動線を整備することで、地域医療機関からの紹介を中心とした診療体制が定着しつつあります。

2025年の実績は、初診・紹介ともに増加し、周術期口腔機能管理の介入件数、入院対応、全身麻酔手術も前年を上回りました(詳細は図表参照)。当科では智歯や、有病者の抜歯をはじめ、感染症、炎症、粘膜疾患、外傷、嚢胞・腫瘍性病変など口腔外科疾患一般に対し、紹介元の先生方と役割分担しながら、全身状態や緊急性を踏まえた治療方針を提案しています。土曜外来も活用し、受診機会の確保と紹介受け入れの利便性向上に努めています。

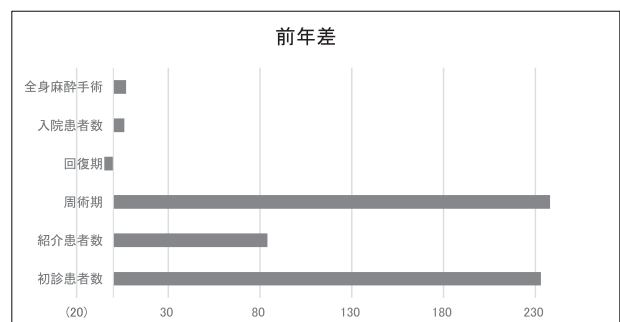
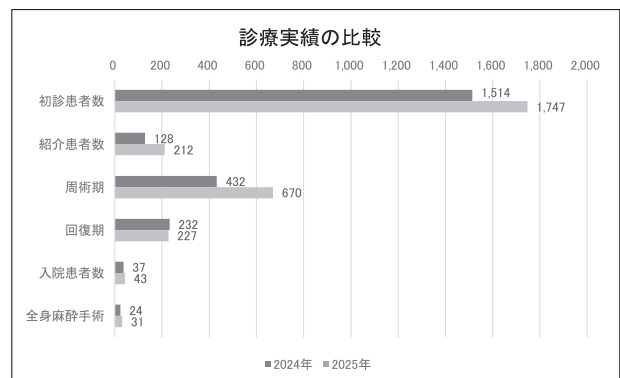
周術期口腔機能管理については、院内に加え、同法人の西宮渡辺心臓脳・血管センターICUへも往診し、術前後の口腔環境を整えることで、誤嚥性肺炎等の感染予防や治療・手術の安全性向上に寄与できるよう取り組んでいます。一方で、当院内の周術期介入は、入院・手術の流れの中で歯科介入をより早期から円滑に開始できる導線整備が課題です。現状は術後介入が中心となりやすく、介入開始のタイミングと運用面で改善余地があります。

2026年は、入院時点で歯科介入の目的と範囲を明確に周知し、入院段階での同意取得を含む運用を整えることで、介入の質と開始時期を改善します。あわせて、外来受診における予約・受付の導線は、紹

介状を持参しての直接来院や電話予約が中心であり、紹介元・当院双方の負担が生じやすい点が課題です。当科として紹介時の窓口と手順を整理し、連絡・予約取得までの流れを分かりやすく提示することで、「相談しやすい・紹介しやすい」体制を明確にしたいと考えています。さらに、紹介元への迅速なフィードバックと情報提供を徹底し、地域連携を一層推進します。必要な処置・手術は積極的に実施し、地域の医療資源として信頼される歯科口腔外科を目指してまいります。

(梨 正典)

| 指標     | 2024年 | 2025年 | 前年差 |
|--------|-------|-------|-----|
| 初診患者数  | 1,514 | 1,747 | 233 |
| 紹介患者数  | 128   | 212   | 84  |
| 周術期    | 432   | 670   | 238 |
| 回復期    | 232   | 227   | -5  |
| 入院患者数  | 37    | 43    | 6   |
| 全身麻酔手術 | 24    | 31    | 7   |



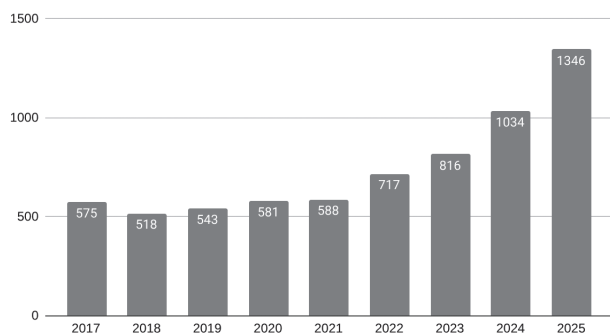
# 麻 醉 科

部長 山田 裕樹

当院麻酔科では、手術を必要とするすべての皆様に対し、常に最善の医療が提供できるよう診療しています。外科系診療科、内科系診療科、手術部との連携はもちろん、必要に応じて西宮渡辺心臓脳・血管センターとも連携を行うことで、安全な周術期管理体制を構築しています。

今年の麻酔科管理手術件数は1,346件でした。今後もいっそう安全で快適な周術期管理を提供できるよう努めて参ります。

手術件数（麻酔科管理）



2020年 第3手術室を新設  
2023年 第4手術室を新設

## 活動内容

### <術前外来による早期からのチーム介入>

当院で手術を受ける方は比較的高齢で併存疾患が多いため、外科系診療科と内科系診療科、手術部、そして麻酔科がひとつのチームとなり手術計画に携わっています。手術を受ける皆様には、手術が決まった時点で麻酔科術前外来を受診して頂いています。個別にリスク評価を行い、最適な麻酔計画を立案しています。

### <安全な術中管理>

1症例に1麻酔科医を適切に配置することで、本年も麻酔に起因する重篤な合併症ゼロを継続しました。また近年、麻酔薬剤・機材の供給が全国的に不安定となっていますが、関係各所との調整により、診療に支障をきたすことなく乗り越えることができました。

### <積極的な術後管理管理チームの運用>

昨年発足した術後疼痛管理チームは、本年も運用を続けることができました。術後疼痛や、悪心・嘔吐、せん妄といった術後生じ得る各種の課題に対して積極的に介入を行っております。

### <末梢挿入型中心静脈カテーテル(PICC)挿入>

昨年から麻酔科と特定看護師の協働により、末梢静脈路確保が困難な症例や中心静脈栄養が必要な症例に対し、PICC挿入を実施しています。今後も、特定看護師の習熟度向上を支援し、より円滑な診療体制を整備して参ります。

## 来年の展望

来年は、手術室の増築や、新しい外科系診療科手術の実施、手術支援ロボットの導入などが予定されており、麻酔科にとっても業務拡大が見込まれます。効率を求めつつも、安全性を妥協しない周術期管理を追求していく所存です。

また、周術期管理チーム認定および術後疼痛管理チーム認定に向けて、看護師や薬剤師、臨床工学技士の多職種研修を積極的に支援し、診療体制のいっそうの充実化を図って参ります。

(山田 裕樹)

# 皮膚科

部長 中村 維文

## 活動状況

現在皮膚科は常勤医師一人と非常勤医師一人の2名体制で診療に当たっています。

### ・外来診療

月曜日から水曜日の午前中および金曜日の午後に外来診療を行っています。

アトピー性皮膚炎や蕁麻疹などのアレルギー性皮膚疾患や蜂窩織炎や带状疱疹、白癬などの感染性皮膚疾患、熱傷や褥瘡、爪の変化や脱毛など、皮膚に関する疾患、異常に対して幅広く対応させていただいています。お電話でも予約可能ですので受診希望の方はご予約いただくと待ち時間が少なくてすむかと思えます。

### ・入院診療

当科では入院加療も行っています。皮膚感染症の重症例や水疱症などは入院にて対応しています。難治性皮膚潰瘍なども場合によっては入院にて局所陰圧閉鎖療法を行っています。

当院で対応困難な症例に関しては、症状に応じて地域の総合病院もしくは大学病院に紹介させていただいています。

### ・訪問診療

月曜日と木曜日の午後は訪問診療を行っています。通院困難な患者様は訪問で診療することも可能です。湿疹など皮膚疾患の加療や、褥瘡、火傷などの傷の処置、爪切り、タコ、魚の目などの処置が可能です。希望があれば適宜相談ください。

## 来年度目標

訪問診療も可能な皮膚科として地域の患者様の必要に応じて、外来もしくは訪問診療にて積極的に対応していきたいと考えています。またわかりやすい説明を心がけ、患者様の皮膚に対する悩みが少しでも軽くなるよう共に頑張っていきたいです。

(中村 維文)



## 泌尿器科

部長 田中 浩之、 部長 呉 秀賢

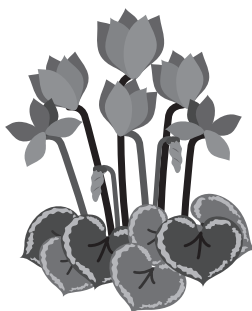
### 2025年診療内容の報告

今年は2名の常勤泌尿器科専門医が着任し、2名の非常勤医師と共に月曜から金曜の午前、午後と隔週土曜日の午前に外来診療を行いました。患者様一人ひとりに寄り添った診療を心がけ、前立腺疾患、尿路結石、膀胱炎、過活動膀胱、泌尿器がん(前立腺、膀胱、腎など)幅広い泌尿器疾患に対応してまいりました。主に診断や内科的治療を行い、手術や外科的処置が必要な場合は近隣医療機関へ紹介しました。地域医療連携を推進し、他科や近隣医療機関との協力体制を充実させることで、より質の高い医療サービスの提供に努めました。

### 2026年の抱負

来年はさらに2名の常勤泌尿器科医を増員し、専門性の高い診療と患者様のQOL向上を目指し、スタッフの教育・研修を充実させ、最新医療技術の積極的な導入を図ります。具体的には前立腺生検、尿管ステント、前立腺肥大症や尿路結石のレーザーを使用した内視鏡手術、泌尿器がんに対する内視鏡や腹腔鏡およびロボット支援手術(ダビンチ手術)を順次開始します。地域の皆様に信頼される泌尿器科を目指し、患者さんの安心・安全を最優先に、チーム一丸となって診療に取り組んでまいります。

(田中 浩之)



# 婦人科

婦人科部長 西川 英樹

## はじめに

2024年7月に西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院から西宮渡辺病院に移転オープンして3年目を迎えます。

リハビリ病院ではあらゆる婦人科疾患に幅広く対応し、また乳腺疾患にも対応してまいりました。

本院に移転後は他科との連携が強化され、またCTやMRIやマンモグラフィなどの各種検査機器も揃っているため、今まで以上に迅速かつ正確な診断が可能となりました。これらの環境整備は患者様から得られる信頼にも直結していると思われ、その後の外来患者数も増加の一途となっています。

## 活動内容

本年も従来に引き続き、投薬治療を中心として行いました。中でも最も多かったのは更年期障害で、女性ホルモン補充療法や漢方薬による治療を行いました。また、月経困難症や月経不順に対しては低用量ピルを用いた緩和治療を行いました。

手術適応にまで至らないような器質的疾患、たとえば子宮筋腫や子宮内膜症などに対しては、それぞれ投薬による保存的治療を行いました。

手術が必要な症例については、県立西宮病院や県立尼崎総合医療センターへ紹介の手続きをとりました。今後は当科で手術治療まで対応できるように機能を拡充していく予定です。

## 来年の目標

4月1日付で新たに柏原宏美先生が着任されます。柏原先生のご専門は子宮脱やそれに伴う排尿障害など、産婦人科の中でもウロギネコロジーと呼ばれる分野です。手術療法も含めて更なる発展が期待されます。

また昨年から兵庫医科大学の馬淵誠士教授をお招きして土曜日に腫瘍専門外来を行っています。本年も引き続きご担当いただく予定です。

西宮市やその周辺では数少ない婦人科疾患を総合的に診断、治療できる施設として、地域の皆様から信頼され、地域に密着した医療を提供できるように診療体制を充実させてまいります。

(西川 英樹)